平成28年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　長尾　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

⑵ 本校の学力調査結果の分析

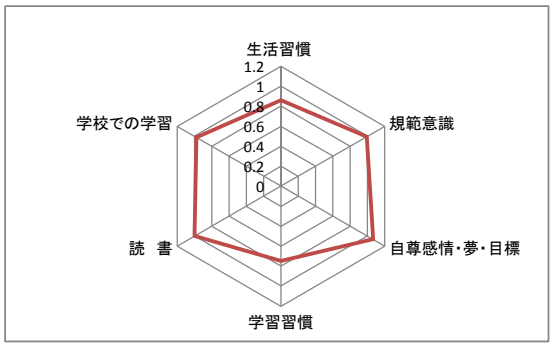
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をやや下回っていたが、昨年度よりもさらに差は縮まっており、基本的な学習が定着してきていることが分かる。 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	書くこと、読むことについては、全国平均を上回っている。学年別漢字配当表に示されている感じを正しく読んだり書いたりする問題も、半数は全国平均正答率を上回っている。	
	努力が必要な問題	ローマ字を書いたり、読んだりする問題は正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をやや下回ったものの、大幅に差を縮めた昨年度よりもさらに差を縮めている。 ・話すこと・聞くことに関する能力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んだり、効果的な読み方を工夫する問題は全国より正答率が高い。	
	努力が必要な問題	グラフや表を基に自分の考えを書いたり、質問する内容を整理したり、話の展開に沿って質問する問題は正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国正答率を上回ることができた。特に数と計算領域の問題は良くできていた。 ・全体的に良くできていたが、図形領域に関する問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数の加減乗除の計算や、除法の計算のきまりに関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	三角形の底辺と高さの関係や直方体における面と面の位置関係についての問題は正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国正答率を下回ったものの、大幅に差を縮めた昨年度よりもさらに差を縮めている。 ・他に比べ、無回答率が高い問題が目立つ。特に自分の考えを記述する問題にその傾向が強い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形を構成する各の大きさを基に、四角形をならべてできる形を判断する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	最大公約数を使って解く問題や、グラフを基に示された事柄が正しくない理由を記述する問題の正答率が低かった。示された除法の式の意味の説明を記述する問題ができていなかった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答した児童の比率が、全国と比べるとかなり低い。
・ほぼ全員の児童が、学校の宿題をきちんとしている。その一方で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の率は、全国の半分ほどである。
・自尊感情は高く、将来の夢や目標をもっている児童は全国よりも多い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標選定を行い行動に結びつけさせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

〇学力向上のための特設時間の実施
・『長尾チャレンジタイム』（朝の15分間）で漢字・読書・計算・音読を全校一斉に実施
・低・高学年に分かれての『ぐんぐんタイム』(給食準備時間の15分間)で授業時間内にできなかった問題等の補充学習

② 家庭生活習慣等に関する取組

〇家庭における自主学習の定着
・学年×10分間の家庭学習時間、及び授業の定着を意図した宿題の出し方について職員で共通理解し、徹底する。
・本校独自の家庭学習チャレンジシートを作成・活用し、月1回の点検する。